

2008年9月21日

[ルート] 相内川林道登山口⇄四ツ滝山
 [参加者名] CL Y.NARA 他11名
 [コースタイム] フェリー埠頭 7:00→280号→蟹田=12号・やまなみライン=今泉→339号→今泉ゆりのり駐車帯 8:00(トイレタイム)→太田→相内川林道→相内川・握沢林道出合 9:20(駐車)→林道歩き→登山口 10:15→山頂 11:15~11:25→登山口 12:00~12:35 昼食→往路を辿り埠頭解散 16:00

[登山口までのアプローチ、登山口の様子]

奥津軽に入って太田から相内川林道に入る。太田川沿いに進むこの林道は登山口までのアプローチが14K強と長い。沢筋を示す表示板も左右に随分あった。

林道 1/4 地点～地元製材会社の立ち入り禁止の看板あるも封鎖されておらず通過させてもらう。

切り出し木材が道路左右に積まれていた。ここを過ぎたあたりから道路状況悪くなる。

林道 2/4 地点～道が掘れている箇所連続等で普通車が動きとれなくなり、道路片側に寄せ駐車。先に駐車帯迄行った車の折り返し迎えを待つ形で3名歩きへ。

林道 3/4 地点(9:25)～相内川林道、起点から10.9km握沢林道との分岐を示す案内板あり。2台を駐車。左、相内側に入り1時間程の歩き。

林道登山口(10:15)四ツ滝山、県自然環境保全地域H7年12月、県自然保護課、市浦営林署と大きく立派な案内板が立っている。その先のしげみ(左側)が登山口である。標柱が草で隠れていて要注意。

[山行記録]

朝7時、参加者12名フェリー埠頭集合。T.O・M.K・Y.N号と3台に分乗し出発。黄金色に波打つ稲穂を眺めながら海沿いを、山沿いを目的地へと走る。長いアプローチを終え、さあ登るぞ！！出だし、頂上まで1773mの標柱は草に隠れ一寸見づらい。最初から深い笹藪で急登気味、こりゃ大変だと思いきやまもなく落ち着く。“浅藪だおん”とM.Kさん。先の横岳の藪ごぎを制した人達が多いだけに“けね、けね”と意気盛んな声飛び交うも跳ね返り、滑り等に注意し、かき分けつかまりながら皆慎重な足運びだ。見通しはないがブナの木々に囲まれ、クッションの効いた歩きが続く。頂上まで400m毎にしっかりした標柱が立っている(右側)。400m過ぎてまもなく、左側には木無岳へと分ける標識。かがんで藪の先を見ると踏みあとだなあと思える道が少し見通せるが先は？だ。お花の名を確認したり、カメラに収めたりしながら1時間程で頂上へ、見通しもなく広さもない。三角点は上部が草から一寸のぞいていた。太田、桂川方面を示す標識あり、T.Sさん等探検隊が分け入っていた。記念写真を撮って少し雨が当たってきた頂上をあとにする。40分程で登山口へ。暗さのあとの明るさ、林道にドカッと腰をおろして思い思いの昼食。クワガタが出てきてM.Mさん、お孫さんのおみやげにゲット！！駐車帯までの林道歩きも程よい腹ごなしになり、



車1台、人っこ1人出会わず、まさに“私達の山”“静謐の山”であった。山ぶどうを見つけ腕白少年とその妹分を彷彿とさせてM.Kさん・E.Fさん結構な収穫。深山の果実酒として漬け込まれ、この先数ヶ月後皆さんに振舞われる予定。十三湖畔駐車帯ではゆったりトイレタイム。秘峰となった感の四ツ滝山行は車に多くの白化粧をして名運転手の3氏によって無事フェリー埠頭に到着。解散となりました。ありがとうございました。

報告 N.MIYAKAWA

2009年5月17日

[ルート] 長根沢林道登山口⇄木無岳
 [参加者名] CL H.NAKAMURA 他 28名
 [コースタイム] 中央市民センター 7:10 → 太田 8:40 → 長根沢林道終点(登山口) 9:00～
 9:23 → 2つ目の鳥居 9:55～10:03 → 稜線 10:30 → 木無岳山頂 10:55～
 11:05 → 登山口 12:05～12:20 → 十三湖高原道の駅 12:45～13:45 →
 中央市民センター 15:15

[登山口までのアプローチ、登山口の様子]

五所川原市(旧市浦村)太田のバス停から太田川沿いの道を700mほど行くと左手に『遭難多発・携帯電話が通じにくくなります』の大きな看板が見える。そこを左折して長根沢林道に入り、約7km(20分ほど)進んだ林道終点が登山口。途中、林道が荒れている所が数箇所あったが、普通乗用車でも通行できた。10台ほどの駐車スペース有。登山口には『木無岳登山道入口』の標柱が立っている。登山口にトイレはないので、途中の今泉PAで済ませる

[山行記録]

曇り空の中、中央市民センターに会員19名・FHC1名・登山教室参加者9名計29名が勢ぞろいする。CL挨拶の後、エステマ3台・登山車2台に分乗して7:10出発。途中蓬田と今泉PAでトイレ休憩して9:00登山口に到着した。身支度を済ませ、H.N CLの指導で稜線にコンパスを合わせる。だいたい40°と分かった所で、SL T.Sさんを先頭に3班・2班・1班の順に出発した。『木無岳登山道入口』の標柱から赤テープが付いている木を目印に細い登山道を少し下り、長根沢を渡る。沢は石に苔が生えていて滑りやすかったが、長靴を履いていたT.Aさん・M.Nさんが手を貸して全員無事渡り終えた。沢のすぐ上にある1つ目の鳥居をくぐると右側が切れ落ちた急登にさしかかる。ロープが張られていた。2班のSL K.Tさんが、すかさず「ロープに頼り過ぎないように。前の人と間隔をあけて1人ずつ上ってください。」と登山教室参加者に声をかけた。9:33 1回目の休憩。衣服を調節した後、杉林の中をゆっくりゆっくり上っていく。登山教室なので、参加者の歩くペースに配慮しているのだ。9:55 2つ目の鳥居で2回目の休憩。鳥居を過ぎると明るいブナ林になったが、心配していた雨が、ぽつりぽつりと降り出した。雨具を着ける班もあったが、先を急いでそのまま進む班もあった。

やがて笹が背丈を越えるようになり、かき分けかき分け進むと稜線に着く。この辺りの道の両脇にはサンカヨウが群生していた。清楚でほのかな香りのこの花がこれほどまとまって咲いているのを今まで見たことがない。1つ1つの花も立派で、1つの株に15も花を咲かせているのもあったそう。この山はトウゲブキの群落で有名だと聞いたが、この時期のサンカヨウも又見事だ。道はいったん緩やかに下り、山頂を巻くようにして進んでいく。笹の丈が低くなり、可愛いヒメイチゲの花も咲いた。視界が開けてきて周りの山々が見え出すと頂上はすぐそこだ。ヒザ丈くらいの草をかき分けて上っていくと祠のある、狭い山頂に着いた。雨は降っているがまだ視界があり、向かいの四ツ滝山や津軽半島の山々、十三湖、日本海が見渡せた。天気は回復する気配がないので急いで集合写真を撮り、早々に来た道を引き返した。何よりも天気が気がかりだったが、大降りになる前に全員怪我もなく登山口に帰ることができた。車の中ではもう31日の十和田山の話も出ていた。今日の山行の満足感と次回参加への意欲が感じられ、有意義な登山教室だった。

